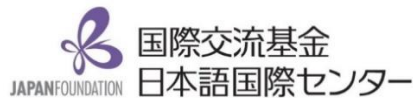


JF 日本語教育スタンダード

Part 4 ポートフォリオを理解する

目標： JF スタンダードが^{ていあん}提案するポートフォリオの目的と構成内容^{こうせいないう}について理解する



1. JF スタンダードのポートフォリオとは

ポートフォリオとは、日本語や文化の学習に関連した^{しりょう}資料を保管^{ほかん}するツールで、学習の^{かえ}ふり返りに役立てるものです。学習を^{じこかんり}自己管理するツールと言ってもいいでしょう。

学習者は、日本語の^{じゆくたつど}熟達度を自己^{じこひょうか}評価し、自分の^{きろく}言語的・文化的体験を記録し、資料を^{しゅうしゅう}収集し、そしてポートフォリオに保管します。それをもとに、自分の^{がくしゅうかてい}学習過程（学習プロセス）や^{がくしゅうせいか}学習成果を^{じりつてき}ふり返ることができます。学習者自身が^{じりつてき}自律的に自分の学習に深く関わるという意味でも、ポートフォリオは大切なツールだと言えるでしょう。

2. ポートフォリオの構成内容^{こうせいないう}

ポートフォリオには、^{ひょうかひょう}評価表、^{きろく}言語的・文化的体験の記録、^{せいか}学習の成果という 3 種類のものを入れます。

まず、評価表とは、例えば教師から^{わた}渡された^{きじゆん}評価基準と^{せいせきひょう}評価シートや^{しゅうりょうしやうめいしょ}成績表、^{しゅうりょうしやうめいしょ}修了証明書、学習者が日本語のレベルを自己評価するためのチェックリストなどがあります。

次に、言語的・文化的体験の記録は、学習者が特に教室の外で自律的に学んだことを記録するものです。自分と異なる言語や文化に対する意識は、記録をすることによって高めることができます。それが異文化理解能力の育成にもつながっていくのです。日本語のマンガを読む、インターネットで日本の文化についての記事を読むなど、間接的、あるいは学習者の個人的な体験も、学びの一部として記録する価値があります。また、自己目標、学習計画、ふり返りを記録することにも意味があります。学習者が自分のニーズや興味に応じて目標を立て、実行し、結果をふり返ることで、自分で学び続けることができる自律性が養われます。

3つ目の学習の成果とは、コースの目標や自己目標にそって学習者が取り組んだ、作文・スピーチなどの音声資料・テスト・プロジェクトの成果物のようなものです。「成果物一覧」のような目次をつけると、学習の成果を分類し整理するために効果的です。

JF スタンダードは、言語と文化の両方を通して相互理解のための日本語を学ぶことを目指しています。ですからポートフォリオにも言語と文化の両方について、学習者の学びがわかるようにすることを提案しています。

〈タスク1〉 上の説明にある情報を整理して、下の表にポートフォリオに入れるものを書き入れましょう。あなたの学校や授業でポートフォリオを作る場合、上の説明にあるものを入れることができるか、考えてみましょう。

評価表	言語的・文化的体験の記録	学習の成果
<ul style="list-style-type: none"> • • • 	<ul style="list-style-type: none"> • • • • 	<ul style="list-style-type: none"> • • • • •

◆自分の学校や授業の場合は？



3. ポートフォリオの効果

〈タスク 2〉 ポートフォリオには、3つの効果があります。効果①②③の見出しを下から 選んでください。

自律的学習能力と学習の動機づけ

学習の評価

学習に関する情報の共有

① _____

まず、ポートフォリオを使えば、学習者、教師、そのほかの関係者が学習目標と学習プロセス、学習成果を共有できます。教師はテストの結果だけではなく学習プロセスも見ることで、学習者をよりよく理解し、適切なアドバイスができるでしょう。

また、学習者は授業を担当する先生が変わっても、他の学校に移動しても、学習者はそれまでの学習情報を正確に伝えることができます。さらに、家族や友人、会社の人などにも日本語や日本のことをどんなふう学習しているのか見てもらうこともできます。

ポートフォリオは学習を自分、教師、学校の中にだけ閉じ込めなくて、むしろ、外に向けて発信し、いい意味で周りの人を巻き込むことができます。他者との共有は、ポートフォリオの大きな長所です。

② _____

次に、ポートフォリオは教室の中だけでなく、外で自主的に学んだことも評価に取り入れることができます。学習者にとっての学びの場は、教室だけではありません。教室の外での日本語や文化の学びや体験の記録、自分で計画を立てた学習の記録などを見ると、学習者を学習する主体としてあらためて捉え直し、豊かな評価をすることが可能になります。

③ _____

3 つ目の効果は②とも関係しますが、学習者が自己評価や体験を記録することで、自律的学習能力や学習の動機づけを高めることができます。

21 世紀を生きる私たちは、自分の学習に責任をもち、自分で学習を進める自律性が必要です。ポートフォリオはそれをいろいろな内容物で可視化しながら育てるものなのです。また、

自分の学習成果や、学びのプロセスを振り返ることは、自信と、さらに学習したいという動機を高めることにつながります。

4. ポートフォリオを使うときの留意点

ここでポートフォリオを使うときの留意点を整理しておきます。

まず、学習者の年齢、教育目的や目標に合わせて柔軟にデザインします。全体構成は教育現場のニーズや目的に合わせて、3種類の内容を組み合わせましょう。ファイルのし方も各現場で使いやすいように工夫します。

学習活動の評価基準は、教師間で十分に検討し、くり返し使って改善します。それによって、妥当性と信頼性を高めていくことができます。

そして、学習成果の振り返りは、学習者自身の自主性にまかせるだけではなく、コース内の活動として組み込みましょう。教師やクラスメートといっしょに振り返る機会を設けることで、学習者の自律的な学習能力を継続的に育成します。

〈タスク 3〉上の説明を読んで、ポートフォリオを使うときの留意点を3つ書いてください。

- _____
- _____
- _____

5. ポートフォリオの具体例

JF スタンダード準拠コースブック『まるごと日本のことばと文化』で学んでいる学習者のためのポートフォリオには例えば以下のようなものを入れます。

評価表	・教科書についている Can-do チェックリスト
言語と文化の体験の記録	・教科書のトピックごとに記入するシート「日本文化体験記録シート」 ・ジャーナル用の書式、 ・参加した文化イベントのパンフレットや記事など
学習の成果	・教科書についているタスクシート(自分で取り組んだタスク) ・会話テストの録音データ(別の電子媒体に保存)、 ・学習成果の内容一覧「いれたもののリスト」

日本文化体験記録シート

学習成果の内容一覧

トピック: オ オリエンテーション
 1 にほんご 2 わたし 3 たべもの 4 いえ 5 せいかつ
 6 やすみのひ 7 まち 8 かいもの 9 やすみのひ2
 テ1 テストとふりがえり1 テ2 テストとふりがえり2 ほか

〈タスク 4〉

『まるごと』のポートフォリオの内容物や、『利用者のためのガイドブック』(p27～)

に載っているポートフォリオの例を見てどう思いましたか。あなたの教育現場ではどんなポートフォリオにすればいいか、考えてみましょう。

6. まとめ

〈タスク 5〉 JF 日本語教育スタンダードが提案するポートフォリオについて、()に適切なことばを選んでください。

- ・ポートフォリオとは学習者が自分の ①()ための資料を保管するツールである。
- ・ポートフォリオは評価表、言語的・文化的体験の記録、②()で構成されている。
- ・ポートフォリオの効果としては、学習情報を他者と ③()こと、教室外の学びの記録と評価ができること、そして ④()と動機づけを高めることなどが期待できる。
- ・ポートフォリオを使うときには、⑤()に合わせて柔軟にデザインすること、評価基準は改善しながら使うこと、ふり返りを ⑥()に組み込むこと、などに留意する必要がある。

a 学習の成果 b 学習をふり返る c 学習者の自律性

d 教育現場 e コース内の活動 f 共有できる

■このパートの参考文献と参考サイト

- ・JF 日本語教育スタンダードサイト
<https://www.jfstandard.jpf.go.jp/top/ja/render.do>
- ・『JF 日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』
<https://www.jfstandard.jpf.go.jp/publicdata/ja/render.do>
- ・みんなの Can-do サイト
<https://www.jfstandard.jpf.go.jp/cando/top/ja/render.do>
- ・『まるごと 日本のことばと文化』サイト <https://www.marugoto.jpf.go.jp/>

■Part4 タスクの答え

〈タスク 1〉

評価表	言語的・文化的体験の記録	学習の成果
<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価チェックリスト ・学習活動の評価基準、評価シート ・成績表、修了証明書 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験と学びの記録シート ・自己目標 ・学習の計画 ・ふり返りのシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文 ・スピーチ等の音声資料 ・テスト ・プロジェクトの成果 ・成果物一覧

〈タスク 2〉

- ① 学習に関する情報の共有 ②学習の評価 ③自律的学習能力と学習の動機づけ

〈タスク 3〉

学習者の年齢、教育目的や目標に合わせて柔軟にデザインすること、学習活動の評価基準は教師間で十分に検討し、繰り返し使って改善すること、学習成果のふり返りは、コース内の活動として組み込むこと

- 〈タスク 5〉 ① b ② a ③ f ④ c ⑤ d ⑥ e